

急性腹症診療 ガイドライン2025

第2版

編集 急性腹症診療ガイドライン 2025 改訂出版委員会

日本腹部救急医学会

日本医学放射線学会

日本プライマリ・ケア連合学会

日本産科婦人科学会

日本血管外科学会

日本病院総合診療医学会

日本超音波医学会

日本超音波検査学会

急性腹症診療ガイドライン 2025

発行 2015年3月1日 第1版第1刷
2021年10月1日 第1版第5刷
2025年3月1日 第2版第1刷©

編集 急性腹症診療ガイドライン 2025 改訂出版委員会

発行者 株式会社 医学書院
代表取締役 金原 俊
〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
電話 03-3817-5600(社内案内)

印刷・製本 三美印刷

本書の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。

ISBN978-4-260-05773-8

本書を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

『急性腹症診療ガイドライン 2025 第 2 版』改訂にあたって

急性腹症診療ガイドラインの初版が発刊されてから約 10 年が経過しました。この間、急性腹症診療における科学的知見と診療現場の実態は着実に進歩を遂げており、さらなる質の向上が求められる状況にあります。今回の改訂版は、急性腹症診療の最新のエビデンスを反映するとともに、現場での活用を一層推進するための工夫を盛り込みました。

初版は、急性腹症の診断と初期対応に焦点を当て、エビデンスに基づいた診療の標準を提示しました。しかし、2015 年の発刊以降、超音波検査の普及や教育機会の充実といった目標に対する課題が指摘されてきました。本改訂版では、これらの課題に対応するため、医療現場での実践を重視し、さらに学習コンテンツの充実を図るために「シナリオ動画と確認チェックリスト」を新たに追加しました。この工夫により、医学生や若手医療者が模擬患者を通じて学ぶ機会を提供することを目指しています。

また、改訂版の作成にあたり、新たな関連学会として、日本病院総合診療医学会、日本超音波医学会、日本超音波検査学会の参画を得ました。これにより、多職種の専門家が集結し、各分野の知見と経験を結集することができました。38 名の委員で構成された改訂出版委員会では、オンラインを活用した効率的な議論を重ね、科学的根拠に基づいた推奨の妥当性を徹底的に検討しました。

今回の改訂版では、初版で設定された 108 の臨床的疑問を再評価し、必要に応じて改善を行うとともに、新たな臨床課題にも対応しました。例えば、超音波検査の推進と 2-step method の実践に関する具体的な指針を示し、教育機会の充実を目的とした新たな内容を追加しています。さらに、医療従事者のみならず、患者やその家族も含めてガイドラインの内容を理解しやすいように、解説部分を充実させました。

本改訂版の完成に至るまでには、関連学会や外部評価委員、患者代表、さらには法律専門家からの貴重なフィードバックがありました。この場をお借りして、関係者の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。また、公聴会やホームページ上での意見募集を通じ、多くの現場の声を取り入れたことが、本改訂版の質の向上に大いに貢献しました。

急性腹症診療ガイドラインの改訂は、単なる知識の更新にとどまらず、医療現場での実践を通じて患者の予後改善に寄与することを目指しています。本改訂版が広く普及し、

多くの医療従事者に活用されることで、急性腹症診療のさらなる質の向上と効率化が実現されることを願っています。

2025年3月吉日

日本腹部救急医学会(理事長：吉田雅博)

日本医学放射線学会(理事長：富山憲幸)

日本プライマリ・ケア連合学会(理事長：草場鉄周)

日本産科婦人科学会(理事長：加藤聖子)

日本血管外科学会(理事長：東 信良)

日本病院総合診療医学会(理事長：田妻 進)

日本超音波医学会(理事長：飯島尋子)

日本超音波検査学会(理事長：尾羽根範員)

急性腹症診療ガイドライン 2025 改訂出版委員会

日本腹部救急医学会 真弓俊彦(担当理事), 三原 弘

日本医学放射線学会 近藤浩史

日本プライマリ・ケア連合学会 矢吹 拓

日本産科婦人科学会 三浦清徳

日本血管外科学会 前田剛志

日本病院総合診療医学会 田妻 進

日本超音波医学会 畠 二郎

日本超音波検査学会 刑部恵介

『急性腹症診療ガイドライン』発刊にあたって

日本腹部救急医学会は2003年に日本膵臓学会、厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性膵疾患に関する調査研究班とともに、『急性膵炎診療ガイドライン』を刊行した。日本で初めてのEvidence-based Medicineの手法に則ったガイドラインとして、その後のガイドラインの手本ともなった。さらに、このガイドラインは2009年に第3版を刊行し、ガイドラインの中で“Pancreatitis bundles”という臨床指標(世界で初めての急性膵炎でのbundles)を日本から提案した。第4版は、この『急性腹症診療ガイドライン』とほぼ同時期に発刊される。

日本腹部救急医学会は、その後、『急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン』を2005年に関連学会とともに発刊し、さらに、国際版ガイドライン(Tokyo Guidelines)も刊行した。2013年には日本版とTokyo Guidelinesを同一の診断基準、重症度判定基準でまとめた。ガイドラインのモバイルアプリを作成したことも寄与し、この内容は海外の教科書にも紹介され、世界的に使用されている。

このように日本腹部救急医学会は急性腹部疾患のガイドラインの作成にあたってきた。そこで、学会の根幹ともいえる急性腹症に関するガイドラインの作成を求める声が高まっていたことから、関係領域の学会と議論を重ね、ご協力を得ながら、今回の刊行に至った。本ガイドライン作成では、日本腹部救急医学会に加えて、日本医学放射線学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本産科婦人科学会、日本血管外科学会の協賛の下、各学会から委員を派遣していただいた。

本ガイドラインの誕生は、ご協力いただいた委員をはじめとして、公聴会で意見をお寄せいただいた方、外部評価としてご協力いただいた方、パブリックコメントをお寄せいただいた方々のご支援の賜物と考えており、皆様に心より御礼を申し上げます。このガイドラインを日常臨床に活用して患者さんに最適な医療を供与していただくことで、よりよい臨床経過が得られるならばわれわれの本望とするところです。

2015年2月

日本腹部救急医学会 理事長 平田公一
日本医学放射線学会 理事長 本田 浩
日本プライマリ・ケア連合学会 理事長 丸山 泉
日本産科婦人科学会 理事長 小西郁生
日本血管外科学会 理事長 宮田哲郎

『急性腹症診療ガイドライン 2015』作成にあたって

日本腹部救急医学会は『急性膵炎診療ガイドライン』『急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン』『Tokyo Guidelines』を刊行してきましたが、今回、学会名である「腹部救急」、すなわち、急性腹症に関する診療ガイドラインを作成することになりました。

日本腹部救急医学会、日本医学放射線学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本産科婦人科学会、日本血管外科学会から委員を派遣いただき、会議では毎回熱心な議論を交わしてエビデンスと日本の医療の現状を熟考しながらガイドラインを作成してきました。

本ガイドラインは疾患ではなく症状から、また広範な疾患が関与するため各疾患の診断や治療には言及せず、そこに至るまでの診断と初期対応に絞ったものとししました。疫学、問診、身体所見、検査、初期対応まで、過去に例のないガイドラインになったものと考えています。これも各領域の委員の協力によるところが大きく、それぞれの豊富な経験と英知を結集したガイドラインが作成できたものと思っております。

しかしながら、質の高いエビデンスが非常に限られている分野も少なからずあり、このガイドラインを契機に、今後のさらなる研究の実施とエビデンスの発信がなされることを期待しております。

公聴会、外部評価ならびに学会ホームページでの公開により、多数のフィードバックをいただき、作成作業における修正・改訂ではこれらが大変参考になりました。この場をお借りして、皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

ガイドラインは作成することが目的ではなく、それを普及させ、参考にしていただき、医療スタッフと患者・家族にとってより良い医療の実践に役立たせることが最大の目的です。そのため、ぜひ多数の方にこのガイドラインを周知の上、ご利用いただきたいと考えています。また、改善すべき点は遠慮なくお知らせいただき、改訂の際にはそれらのフィードバックを参考にして実地臨床でより活用しやすいものになりたいと考えています。

最後になりましたが、委員のご尽力に心より御礼を申し上げます。

2015年2月

急性腹症診療ガイドライン作成委員会を代表して

委員長(日本腹部救急医学会) 真弓俊彦

副委員長(日本腹部救急医学会) 吉田雅博

副委員長(日本医学放射線学会) 古川 顕

副委員長(日本プライマリ・ケア連合学会) 田妻 進

副委員長(日本産科婦人科学会) 西井 修

副委員長(日本血管外科学会) 重松邦広

目次

『急性腹症診療ガイドライン 2025 第 2 版』改訂にあたって／iii

『急性腹症診療ガイドライン』発刊にあたって／v

『急性腹症診療ガイドライン 2015』作成にあたって／vii

第 I 章	クリニカルクエスチョン一覧	1
第 II 章	ガイドライン作成方法	11
	1 急性腹症診療ガイドラインの改訂の必要性	12
	2 本診療ガイドラインおよび改訂版の目的	12
	3 対象利用者	12
	4 対象疾患	12
	5 本診療ガイドラインを使用する場合の注意事項	12
	6 診療ガイドラインの作成・改訂過程	13
	7 診療ガイドライン改訂出版委員会	14
	8 診療ガイドライン改訂方法	15
	9 公聴会(医療者からの情報収集)と外部評価	19
	10 普及のための工夫	20
	11 診療ガイドラインの出版後の評価について	20
	12 改訂について	20
	13 利益相反(COI)	20
	14 作成資金	21
第 III 章	急性腹症の定義 (BQ1 ~ BQ3)	23
第 IV 章	急性腹症の疫学 (BQ4 ~ BQ17)	33
第 V 章	急性腹症の医療面接 (BQ18 ~ BQ20)	51
第 VI 章	急性腹症の診察 (BQ21 ~ BQ36, CQ1)	69

第七章 急性腹症の検査	93
1 血液検査 (BQ37 , CQ2 ~ CQ5)	94
2 心電図, 尿検査 (BQ38 ~ BQ43 , CQ6)	104
3 画像検査 (BQ44 ~ BQ47 , FRQ1 ~ FRQ4 , CQ7 ~ CQ12)	113
第八章 急性腹症の鑑別診断 (BQ48 ~ BQ74 , FRQ5)	133
第九章 急性腹症の初期治療 (BQ75 ~ BQ78 , CQ13 , FRQ6)	163
第十章 急性腹症の教育プログラム (CQ14 , BQ79 ~ BQ81)	177
索引	185

本書の Web 付録はこちらから

⇒ <https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/115447#tab5>



- ・ Web 付録は PC, タブレット端末, スマートフォンでご覧いただけます。
- ・ 動画再生, ファイルダウンロードの際の通信料は読者の方のご負担となります。
- ・ Web 付録は予告なしに変更・修正・配信の停止が行われることがあります。
- ・ Web 付録はユーザーサポートの対象外とさせていただきます。
- ・ 提供期間：2028 年 3 月 20 日まで

■ Web 付録の内容と本書の関連ページは以下の通りです

- 付録① シナリオ動画と事前・事後確認チェックリスト …… 12, 20 ページ
- 付録② システマティックレビューレポート (CQ1 ~ CQ14) …… 16 ページ
- 付録③ 補足的コンテンツ (PDF ファイル 4 点)
 - 1) 「イレウス(ileus)の研究の歴史」 …… 25 ページ
 - 2) 「偽性腸閉塞症(IPO)の疾患分類」 …… 27 ページ
 - 3) 「疾患各論」 …… 159 ページ
 - 4) 「鎮痛薬別の注意点」 …… 172 ページ
- 付録④ 各種ガイドライン一覧(17 点) …… 182 ページ